

ニルスからの メッセーじ

ものづくりで大切なのは 丁寧な仕事

株式会社びえろ 最高顧問

布川 郁司氏



© (株)学研教育アイ・シー・ティー

1980年1月～81年3月、NHK総合テレビで放送された『ニルスのふしぎな旅』（全52話・各話30分）

学習研究社（現・学研ホールディングス）からの依頼を受けて『ニルスのふしぎな旅』のアニメーションを制作したのは1979年。当時は時間に余裕がなかったため、私はスウェーデンに行っておらず、現地を視察したのは美術監督だけ。短期間に多くの写真を撮影してきたものの、それだけでは全52話に及ぶアニメを制作する上での資料として不十分でした。そこで、ニルスが両親と暮らす農家の構造から家具、食器、カーペットの雰囲気に至るまで、細かい部分は全て在日スウェーデン大使館の協力を得て、1話ずつシナリオが上がった段階で設定していきましました。またニルスには多くの鳥や動物が登場しますが、鳥を正確に描くのはとても難しく、動物にしてもそれぞれ歩き方や表情が異なります。そのため、アニメーターたちには単に絵がうまいだけでなく、動物の動きを正しく理解し、的確に表現する力も要求されました。

私が演出を担当した第2話「小さくなったニルス」では、妖精を怒らせてハムスターとともに魔法で小さくされてしまったニルスが、ガチョウの首につかまって、自分の生まれた家から大空へ飛び立つていく場面があります。まさにこれから主人公の冒険が始まるガチョウの羽ばたくシーンを、どうしてもスローモーションで印象付けたかったので、8000枚にのぼるアニメーションを用意しました。ニルスでは鳥や動物の動きをきちんと表現するため、全編を通してアニメーションの枚数は通常のテレビアニメよりも多かったのですが、第2話で私が入れようとした枚数はさらに数倍の量でした。しかも限られた時間と予算の中で仕上げる必要がなく、制作担当者から

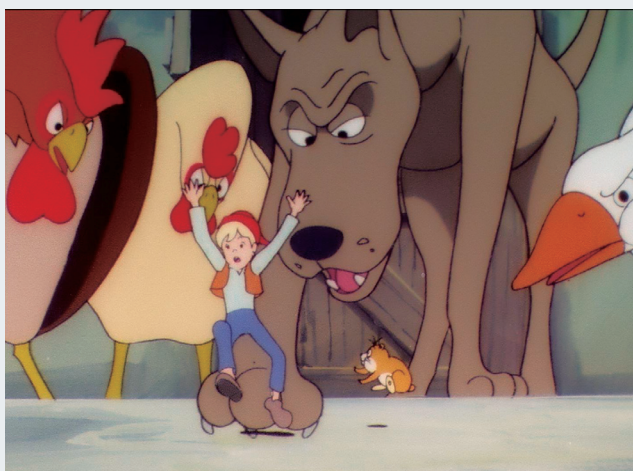


ニルスの舞台となった スウェーデンは鉄鉱石の宝庫

『ニルスのふしぎな旅』の原作者は、1909年にスウェーデン人として、また女性として初めてノーベル文学賞を受賞したセルマ・ラーゲルレーヴ。国から要請を受け、スウェーデンの子どもたちが自国を理解する目的の書籍として06年に第1部、07年に第2部を発行。スウェーデンの自然や産業、資源についての知識が得られるように工夫されている。スウェーデンは鉄鉱石の産地であり、古くから鉄鋼業が盛んに行われてきた。原作では製鉄所で真っ赤な鉄が圧延される様子も描かれている。



© (株)学研教育アイ・シー・ティー



© (株)学研教育アイ・シー・ティー



布川 郁司 (ぬのかわ・ゆうじ)

1947年生まれ。79年創業の老舗アニメスタジオオビエロの創立者。『ニルスのふしぎな旅』を皮切りに、『うる星やつら』『魔法の天使クリイミ』『NARUTO』など、『おそ松さん』など、100本を超えるアニメの企画・制作に携わってきた。2009〜14年一般社団法人日本動画協会理事長。13年NUNOANI塾を設立し、日本のアニメ・コンテンツ産業をけん引する人材育成に取り組んでいる。

は「このままでは会社がもたない！」と言われたほです(笑)。

わんぱくな主人公がさまざまな体験を通して成長していくなかで、スウェーデンの自然や環境を知ることのできるニルスは、テーマ性がはつきりしている半面、教育的な要素の強い作品です。ともすると、面白味に欠けてしまいがちなものを、エンターテインメントとして楽しめる作品に仕上げるのができたのは、実写以上にキャラクターの存在を深く掘り下げる日本のアニメーションの力によるものだと自負しています。

文化の異なる西洋の作品を日本人が描くのは決して容易ではありません。しかし、私たちはあらゆる角度から現地の文化をリサーチし、それを理解した上でより良い作品をつくり上げることにこだわりました。それによって、作品はもとよりプロダクションの存在自体も海外から認めてもらうことができたのです。ニルスの舞台となったスウェーデンは鉱山が多く、伝統的に製造業が盛んだと聞いています。鉄鋼業もアニメ制作業も大切なのは丁寧な仕事に徹すること。ものづくりはつくり手の思いが相手に伝わるだけに、きめ細かな取り組みが第一だと感じています。(談)